

これからの学校像と今後の教育課程、学習指導、
学習評価等の在り方について

本検討会で議論したい点（委員：市川伸一）

1. 学習指導要領の内容の追加と削減をめぐる問題

(1) 「何を、いつから」問題（教育課程の永遠の課題）

「社会に出ると～が必要だから早くからやるべき」という意見
それを議論するときの根拠をどこに求めるのか

発達・教育諸科学の知見、これまでの教育効果の検証

(2) 学習指導要領の総量を縮減すべきか

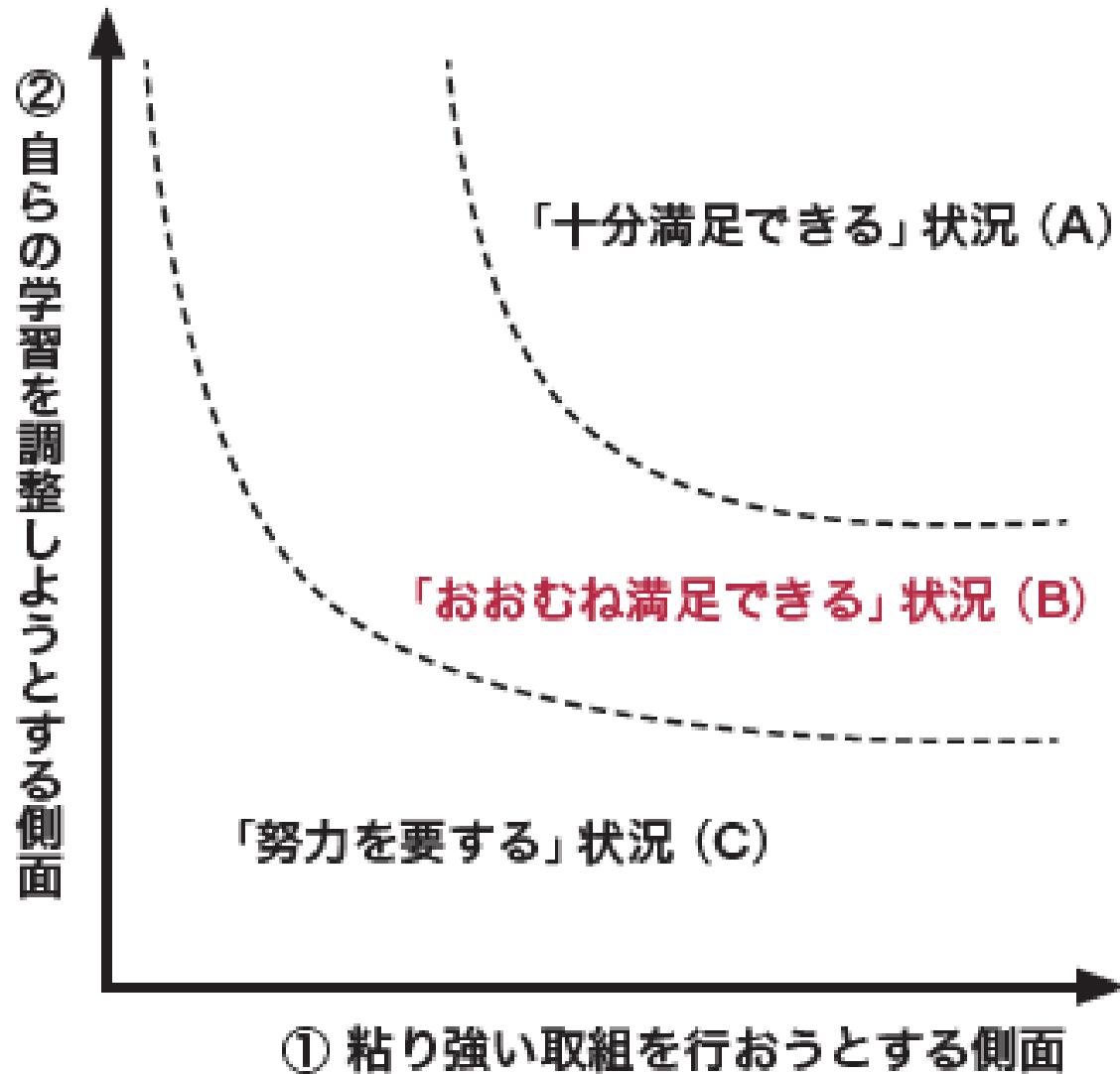
「内容が多すぎる。削減すべき」という意見があるが
授業方法の問題、指導要領以外の過重負担も考慮する必要

2. 学習評価の理解は浸透し、指導に生かされているか

「主体的に学習に取り組む態度」はいまだに混乱

とくに、「学習の自己調整」・・・なぜ通じにくいのかの検討

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ



国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』(2019)より